

今を未来に



学ぶことが楽しい学校 だいすき・つながる・じっくり・やってみる・すこやか・まなぶ



NRT、みえスタディチェック、全国学力・学習状況調査の結果から

1学期に、全国学力・学習状況調査(6年生)・標準学力検査NRT(2～5年生)・みえスタディチェック(4・5年生)を行いました。この検査は、4月に行い、前年度の学年(例:2年生であれば1年生の時)の学習内容をどれだけ身に付けているのかを検査するものです。新しく出会った学年の子どもたちの学力面での強みと弱みをつかみ、授業改善に生かすことを目的に行っています。

以下に、今年度の2年生から6年生までの学年の結果をお伝えします。また、「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについてお知らせします。

みえスタディチェック、NRTについての個人票は1学期懇談会にてお渡ししました。全国学力・学習状況調査につきましては、2学期にお子様に返却いたします。個別の詳しい結果についてはそちらをご覧ください。

分析結果を公表するにあたり、その学年の「強み」「弱み」を的確につかみ、授業改善・工夫すべき点を確認しました。そして、家庭学習に関わることは、お子様一人ひとりに自覚して欲しいと思うこと、家庭で気を付けて協力して欲しいと考えていることを書きました。ぜひご一読ください。

【到達度検査の結果からの学校全体の状況】

本校の強み・・・国語「書くこと」に力がついてきている

多くの学年が国語「書くこと」を強みとしています。昨年度は「書くこと」の平均正答率が低い学年が多く、少しずつ「書くこと」の力がついてきていると言えます。

書く活動を通して、書く力をさらに高めていき、書いたものを話す、聞く、読むという活動へ広がっていくことで、他の領域の力も高めていきたいと考えています。また、日々の授業の中で、自分の思い、考えを持ち、相手に伝え、再考していくことをこれからも大切にしていきます。

本校の弱み・・・算数「数と計算」における、わり算を苦手としている

算数「数と計算」の領域がほとんどの学年で正答率が低い状況でした。特に4年生以上はわり算がどの学年でも正答率が低い結果となりました。学年が上がるにつれ、整数の四則演算だけでなく、小数のわり算や倍等の四則演算を活用した問題に対応していかなければなりません。

数と計算の力を高めるためには、四則演算の反復練習や数量の感覚を養うことが大切です。ミライシード等ICTの活用をしながら反復学習を進めていきます。また、低学年では実物を、高学年ではタブレットを活用して数量の感覚を養っていきます。

指導の工夫・改善

- ①自分の考えを持ち、書く学習活動の展開
- ②選択型・短答型を様々な学習活動で積み重ね、記述型で答えられる力を養う
- ③四則演算を活用した問題を反復学習する
- ④作文指導・読みあう活動
- ⑤ICTの活用ミライシードの反復学習、シミュレーションを使って実際にできないことをやってみられる体験をする

右に示した問題は、全国学力学習状況調査の算数の問題で全国的に正答率が低かったものです。本校の6年生の正答率の中で、1番低かった問題でもあります。

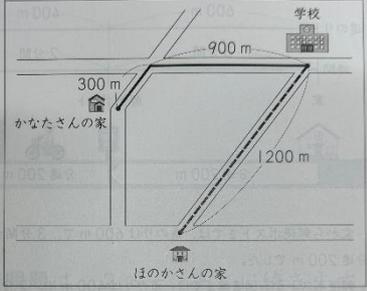
学校からかなたさんの家までの道のりと学校からほのかさんの家までの道のりを比べるとともに、それぞれに要した時間を比べて、どちらが速いかを考える問題です。今回の問題では、どちらも道のりが同じであるため、時間の短い方が速いということになります。そこに気づくことができるかを問われている問題ですが、多くの子がどちらが速いかを解答することはできても、時間が短いことに着目することができませんでした。また、記述式の問題ということもあり、説明することができませんでした。

子どもたちには、授業の中でなぜそのように考えたのか、より簡単な方法はないかを考え、伝え合うことで新たな視点に着目したり、説明したりできる力をつけさせたいと考えます。

児童に一人一台タブレットが導入されて5年目になります。授業でのICT機器の活用をはじめ、ミライシードでの反復学習や自分でつまづきを見つけて解決する学習ができるように支援をしていきます。

以上のことを教職員で共有し、学校全体で指導の工夫改善を進めていきます。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。
家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。
それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。
下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん
2 ほのかさん

【6年生 全国学力・学習状況調査の結果より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語は、やや下回ってはいますが、ほぼ全国平均並みの結果でした。算数は、どの領域も全国平均を下回っており、子どもたちの課題が浮き彫りとなりました。教科ごとに内容や領域、問題別に分析すると、以下のような強みや弱みが見えてきました。

2. 「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語 ○「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情、具体的な人物像などを、描写を基に捉えることができる。

算数 ○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することができる。

○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができる。

(弱み) 国語 △「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。

算数 △除数が小数である場合の除法の計算。

△道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語における強みは、登場人物の相互関係や心情、具体的な人物像などを、本文の描写から正しく読み取ることができているというところです。事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書くこともできていました。書く力が身に付いてきている一方で、文の中で漢字を正しく使っていないという課題が明らかとなりました。

漢字の定着に関しては、やはりコツコツと努力を続けることが必要です。6年生では新出漢字が多くありますが、その確実な定着を図るために練習量を増やしていく必要があると考えています。今後、新出漢字の練習の仕方や宿題の出し方について、工夫・改善を図っていきます。また、既習漢字を正しく使う力も身に付けさせていかなければなりません。子どもたちに文章を書かせる際には、習った漢字をきちんと

使っていくことをこれまで以上に意識させていきたいと考えています。漢字の意味や使い方の理解を深めていくために、読書は非常に有効です。2学期以降、読書指導にも力を入れていきたいと思えます。

算数においては、変化と関係の領域の中でも特に、速さに関する問題の正答率が低い結果となりました。道のりと速さ、時間の相互の関係性を捉える力をつけていく必要があります。速さの問題を、ただ単に型にはめて解くだけではなく、解き方について深く考える習慣をつけることを大切にしていきます。

《具体的な取り組み》

- (国語) ・練習量を増やして、新出漢字の定着を図る。
 - ・作文指導において、既習漢字の使用を徹底する。
 - ・漢字や言葉の理解を深めていけるように、読書習慣を身に付けさせる。
- (算数) ・授業の中で、必要な情報を選択、活用し、問題を解決していく活動を行う。
 - ・ICT機器などを効果的に使いながら、理解の定着を図る。
 - ・型にはめて解くだけにとどまらず、どうしてそのように解くのか、どうしてそのような方法で解けるのかなど、深く考える時間を保障する。

4. 質問紙から見られる特徴(子どもの学習・生活状況や学校運営に関して課題と考えられること)

・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)」の設問は、全国平均と比較すると、著しく低い傾向にあります。また、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の設問と、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」の設問は、全国平均と比較すると、高い傾向にある。このことから、デジタルデバイスが身近にあふれている現状で、子どもたち自身に使い方を再検討させる必要性を感じました。

・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用し学ぶ時間も含む)」と「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用し学ぶ時間も含む)」の2つの質問からわかることは、子どもたちは平日と比較すると休日は、自分で学習をする習慣が身につけていないことがうかがえました。休日にも、学習する習慣をつけておくと、中学校へ進学しても、平日だけで宿題などを終わらすのではなく、自分で計画的に時間を使いながら、課題に取り組めるようになります。そして、自分で何に取り組むか考え、選択し、計画的に行うことができる自主学習にも引き続き取り組んでいきたいと思えます。

5. 家庭学習にかかわって

1学期同様、漢字練習と計算練習、音読の3つを宿題として出していきます。学力・学習状況調査の結果から、漢字、計算ともに、既習内容の定着が不十分であることが明らかとなってきました。そのため、家庭学習における練習量を増やしていく必要があると考えています。繰り返し同じ問題に取り組むドリル学習によって、既習内容の確実な定着を図っていきます。そのことに加えて、自主学習も大切にしていきたいと考えています。自分の苦手なことや自分に必要な学習は何かを考えて自主学習に取り組むように指導し、中学校に向けて、自分で課題を見つけて取り組む力を身に付けさせていきたいと考えています。「書くこと」に関しては、今回の調査の結果では子どもたちの強みとなっていますが、当然ながら全ての子が書くことを得意にしている訳ではありません。書くことに対する子どもたちの意欲を大切にしながら、週末には作文等を課題として出し、子どもたちの「書く力」をさらに伸ばしていきたいと思えます。

与えられた課題を済ませるのに必要な時間は、子どもによってそれぞれ違います。そんな中で、お子様が毎日取り組んでいる学習時間(6年生の目安は70分)は十分なものであるのか、家庭学習を始める前に、自身で学習環境を整えて取り組んでいるのか等、お子様の家庭学習の取り組み方を可能な範囲で見えただき、より集中して取り組めるようアドバイスをしていただけると助かります。家庭学習の様子で見えてきたこと、思われたこと等について担任まで教えていただけると、今後の指導の改善にもつながりますので、ぜひともお話を聞かせてください。

【5年生標準学力検査NRT・みえスタディチェックの結果考察より】

1. 国語・算数・理科の全国平均・市平均との比較にかかわって

《NRT》 国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域すべてにおいて、全国平均をやや下回る結果となりました。算数も、すべての領域で全国平均を下回る結果となり、特に「図形」の領域に課題が見られました。

《みえスタディチェック》 算数は、市の平均を上回り、国語・理科の2教科は、市の平均を下回る結果となりました。

2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

《NRT》

(強み) 国語 「話の中心を意識して聞く」の項目がよくできている。

算数 「変化と関係」の「変わり方の読み取り」は、よく理解できている。

(弱み) 国語 「情報を選び構成を考えて話す」「目的に応じて工夫して書く」の項目が課題。

算数 「図形」の領域は特に課題。

「数と計算」「変化と関係」の領域の中では、特に「わり算」「分数」「割合」が課題。

《みえスタディチェック》

(強み) 算数 全体的に無回答が少なく、市の平均も上回っており、粘り強く問題に取り組む力が身についている。「時間」や「重さ」にかかわる問題が特によくできている。

理科 「地球」の領域で、「気温の変化」についての問題がよくできている。

(弱み) 国語 「書くこと」 接続語を使って内容を分けて書く力を問われる問題と、相手や目的に応じて筋道を立てて話す力を問われる問題では、正答率が低く、無回答も多い。条件に合わせて簡潔にまとめて書く・話す力に課題あり。

算数 「数と計算」の領域で、「少数のわり算」「倍を求める場面にわり算を用いる問題」の正答率が低く、わり算や倍を求める問題への理解に課題あり。

理科 「エネルギー」の領域に、無回答が多くなっており課題あり。

直列つなぎや並列つなぎ、回路図について、十分に理解できていない。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

テスト結果から、基礎的な学力の定着が重要であることが再認識されました。特に「書くこと」に苦手意識を持つ子どもが多いことから、国語の学習では「書くこと」に重点を置いて指導を進めていきます。文章を書く前に内容を整理し、主語、述語、接続語などの文法を正しく使いこなせるよう繰り返し練習します。また、書いた文章をクラス内で共有し、語彙力を増やしつつ文章構成を互いに学び合う機会を設けます。各教科の学習においても、短い文章を書く活動を積極的に取り入れ、伝えたいことを正確に表現できる力を育てます。

読解力の不足も課題として浮かび上がりました。読解力を向上させるためには、文章を読む経験を積むことが不可欠です。読書活動や音読に重点を置き、語彙力を増やし、書く力を伸ばしていくことに繋がります。また、読書や音読の取り組みを価値あるものとして位置づけ、児童が意欲的に取り組めるよう支援していきます。昨年度から導入された電子図書館も積極的に活用していきます。

算数では、特に「図形」や「分数」「割合」に課題が見られます。5年生では、算数において、3クラスに分かれ、16人の少人数で授業を行っています。少人数だからこそ「分からない」と相談しやすく、分からないことを放っておかない環境を作ることができます。少人数の授業の中で、児童が「分からない」と感じた部分に対応し、「分からなかったことが分かる」という達成感を感じられる授業を心がけます。授業の開始時には基本的な四則計算を繰り返し練習させる時間を設け、特にかけ算とわり算の定着を図ります。誤りを自分で発見できるように指導しながら、反復練習を通じて理解を深めます。

「図形」の学習では、教科書を見るだけや問題を解くだけではイメージが難しいことも考えられるため、具体物を触ったり、タブレットを使って図形を動かしたりすることで、視覚的に理解しやすくする工夫を取り入れます。また、「割合」の理解を促すために、数直線を活用し、もとにする量と比べられる量の関係を明確に理解できるよう指導します。買い物の場面など、実生活に関連した課題を設定することで、児童がイメージを持ちやすくし、意欲的に取り組めるようにします。

理科の学習では、児童の疑問を出発点にし、なぜそうなるのかを全員が理解できる授業を展開します。実験や観察の結果をまとめ、その結果から何がわかるかを丁寧に考察させることで、思考力を高め、学習内容の定着を図ります。また、考察を共有する時間を設け、自分の考えを論理的に話す力を養います。

《具体的な取り組み》

- (国語) ・簡単なプレゼンテーションや作文練習を行い、話や文章の構成を練習する。
 - ・書くことを重視し、短文でまとめる活動を増やす。
 - ・読書活動や音読の機会を増やし、読むことの価値づけを図る。
- (算数) ・授業始めの計算プリントで、かけ算、わり算、分数の計算の定着を図る。
 - ・「図形」の学習では、具体物やタブレットを有効活用する。
 - ・論理的に考えるためのツールとして、数直線の活用を徹底する。
- (理科) ・疑問→結果→考察の流れを丁寧に扱うことで理解を深め、学習内容の定着を図る。

4. 家庭学習にかかわって

学習内容の定着を図るため、「漢字練習」「計算練習」を毎日の宿題として出しています。国語の授業の進度に応じて、「音読」の宿題も出しています。夏休みには、毎年恒例の1行日記の宿題を、1週間日記としました。1行ですと、書く量が限られ、「家でゆっくり過ごした」「バーベキューをした」「宿題をたくさんした」などのように出来事を書くだけになってしまいます。1週間日記には、その1週間の中で印象に残った出来事について、「いつ、どこで、だれと、何をして、どう思ったのか」を書くこととしています。日常の様子を思い出し、文字にすることは、今の自分の考えや行動がどのようなものかを自身に問う良い機会となります。書く力の向上にもつながりますので、今後もこのような宿題に丁寧に取り組んでほしいと思っています。

1学期の様子を見ると、多くの子が出された宿題に真面目に取り組み、毎日きちんと提出することができています。1つ気になったこととして、答え合わせをしていない、答え合わせが不正確という点がありました。間違っただけのまま放っておいては、次もまた同じ間違いをしてしまいます。答え合わせの重要性について1学期にも話をしてきましたが、保護者の方にも答え合わせまできちんとできているか見ていただけると子どもたちの学力アップにつながりますので、ご協力お願いします。宿題を毎日取り組むことができて一方、「自主学習」についてはその取り組み状況は様々で、できている子とできていない子がいます。自主学習では、自分に必要な学習を見つけて取り組むことで苦手を克服したり、得意を伸ばしたりすることができます。また、自分に合った学習方法を見つけることもできます。与えられた宿題をこなすだけでなく、どうしたらより力がつくのかを考えて取り組む力を身につけてほしいと思っています。自分に合った学習方法を見つけるヒントにしていけるように、学級内でも、それぞれの自主学習を交流する取り組みを行っていきます。新出漢字を確実に定着させていくためには、家庭学習における漢字練習が必須です。毎日の宿題だけでは不十分な子もいますので、足りない部分はこの自主学習で補ってほしいと思います。与えられた宿題をこなしているだけでは、その時は分かっている、忘れてしまうこともあります。特に今回のテストの結果から、算数において「わり算」「分数」の理解に課題が見られました。忘れていないことに気づいたら自主学習で補うことができれば、今後の学習にも大きなプラスとなります。分からないことがあれば、辞書やタブレット使って自分で調べる、その日に学んだことを再度ノートにまとめ直すなど、定着させるための自分なりの工夫をしていけるようになってほしいと思います。

子どもたちが強い苦手意識や抵抗感を持つ「書くこと」に関して、家庭における音読や読書活動をより大切にしてほしいと思います。声に出して文章を読むことや、様々な文章に触れることのできる読書活動は、「書く」力の向上にも効果があると考えます。教科書のお手本となる文章から、文章・言葉や言い回しなどを音として覚えておけば、それをもとにして自分の文章が書けるようになります。また、語彙力や読解力を向上させるといった効果もあります。2学期以降、音読や読書活動の大切さを再度子どもたちに伝えていきます。今後ご家庭におけるサポートをよろしくお願いします。

学習環境も大切です。机の上に unnecessary なものが出ていませんか。下敷きは敷いていますか。学習する姿勢は整っていますか。ダラダラと取り組み、時間だけが長くなっていませんか。学校でも話していますが、環境が原因で集中して学習に取り組めていない子もいるようです。学習内容、学習環境、学習時間が良くなると、より確かな学力の定着につながります。ぜひご家庭でもご確認をよろしくお願いします。

【4年生標準学力検査NRT・みえスタディチェックの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

《NRT》国語：全国平均を下回る結果となりました。

算数：全国平均並みの結果となりました。

《みえスタディチェック》国語：市の平均並みの結果となりました。

算数：市の平均を下回る結果となりました。

2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

《NRT》

- (強み) 国語 「漢字の読み書き」の定着が見られる。
算数 「数と計算」 四則計算を中心に「整数の表し方」「小数」など一定の理解が見られる。日頃から、分かるまで粘り強く取り組む姿勢があることが伺える。
- (弱み) 国語 「話すこと・聞くこと」「接続語」「丁寧語」「話し合い・要点のメモ」など。情報を取捨選択し、話の要点を聞き取ることが苦手である。
算数 「数と計算」「分数」「割り算」「4けた-4けた」など。また、「2けた×2けた」の問題では、無回答が多く、九九の定着に弱みがある。どうしてそのような計算になったのか筋道を立てて説明することにも弱みがある。

《みえスタディチェック》

- (強み) 国語 「漢字の読み書き」の定着がみられる。
算数 基礎的な四則計算の定着がみられる。
- (弱み) 国語 「接続語」に弱みがある。指示する語句の役割を十分に理解できていない。
算数 「データの活用」に弱みがある。棒グラフのめもりに着目し、必要な数値や差を読み取ることが難しい。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

検査結果から、何よりも基礎・基本的な学力の定着が必要であると言えます。

特に国語の「話すこと・聞くこと」では、話題に沿って話を聞いたり、何を問われているのかを読み取ることが課題として挙げられます。「話型」を示して話し合いをさせたり、いくつかの条件を提示して文章を完成させたりする活動をすることで話す・聞く力を伸ばしていきます。また、調べ学習で、自分が伝えたい情報を選択し、相手に伝わりやすい言葉で構成を考えます。そして、考えたことを「話し合い」「聞き合う」活動を取り入れます。ほかにも、「接続語」の正しい使い方が理解できていないことも課題として挙げられます。接続語の文法的な役割を復習したり、どの内容を指しているのか読み取る力をつけたりする必要があります。説明文の読解を進めていくにあたり、「接続語」の意味を理解できるように指導していきます。具体的には、各教科の学習の中で、主語・述語・接続語を用いて文章を書く活動を積極的に取り入れていきます。

算数では、「2けた×2けた」の計算の正答率が低かったことから、九九の定着が弱みと考えます。そのため、九九をもとにして考える「わり算」「分数」の単元では、正答率の低さが目立ちます。また、算数では無回答も目立ちました。四則計算や九九を確実に定着させていくことが問題を早く、正確に解くことに繋がっていきます。日々の学習の中で、確かな計算力を身につけさせていけるよう、復習の時間を確保していきます。

現在、算数の授業では、3つのグループに別れて少人数で学習を進めています。少人数だからこそ分からないことを「分からない」と言いやすくなっています。また、発表に関しても自分の考えを伝えようとするみんなの前で話す姿も増えています。「分からない」「考えを自分の言葉で伝えよう」という姿勢から学びを上げていきたいと考えています。子どもたちの「分からない」という声を大切に、私たち教師だけでなく、子どもたちが教え合う活動を通して説明する力をつけていきます。

ほかにも、日々の学習の様子から、問題文の読み取りの段階でのつまずきも見られます。問題文を図で表したり、必要な言葉や数を探したりする学習や、自分の考えを図や具体物を使って説明する学習に取り組むことで、問題を理解して学習に取り組んでいけるような指導をしていきます。

《具体的な取り組み》

- (国語) ・漢字の読み書き・ローマ字など、確実な理解の定着を図る。
・「調べ学習」をもとに話し合いをしたり、いくつかの条件をもとに文章を書いたりする活動をする。
・作文する中で、主語・述語・接続語を文法的に正しく使う。
- (算数) ・授業の中や宿題で、九九やわり算の復習を行っていく。

- ・「分からない」を出発点にして、自分の考えを図や具体物を使って説明する機会を増やす。

4. 家庭学習にかかわって

自主的に学習に取り組む子が増えてきています。その一方で家庭学習を雑に取り組む子が目立つようになりました。家庭学習での見直しや答え合わせは、自分の弱みはもちろんのこと、強みも発見できるチャンスです。その両方を理解して、課題や次の目標を明確にし、「できるようにがんばろう」「さらに力をつけよう」とやる気や自信につなげていってほしいと思います。宿題に加え、自主学習でさらに反復練習したり、漢字ドリルだけではなく辞書を用いて学習を進めたりしている子は学力の定着が見られます。見直しや答え合わせだけではなく、毎日の学習を丁寧に取り組むことで確かな学力につながっていきます。

宿題は主に「漢字ドリル」「計算ドリル」を用いて反復学習を行っています。また、「音読」は語彙力や読解力の向上につながるといった効果があります。4年生の学習は、今後の学習の基礎となる重要なものばかりです。特に、算数は「できた」という経験を積み重ねていくことこそが次への学習のモチベーションにもつながります。今後も、子どもたちのつまずきや課題を把握し、近くで見守ったり、サポートや助言をしたりできるよう、保護者のみなさんと一緒に協力しながら家庭学習を進めていきたいと思っています。

【3年生標準学力検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

国語は、「書くこと」「話すこと・聞くこと」が全国平均と同等の結果となり、「読むこと」は平均を下回りました。算数は、「数と計算」が全国平均と同等の結果となり、「図形」「則て・データの活用」は平均を下回りました。

2. NRTの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

- (強み) 国語 「文や文章を正しく書く」については十分な力がついている。「読み返してよいところを見つける」「言葉の対応に気を付けて話す」「大事なことを聞き取る」「片仮名、漢字の書き、言葉の意味」については全国平均とほぼ同等の力がついている。
- 算数 「数の構成と表し方」については十分な力がついている。
- (弱み) 国語 「話の内容の大体をとらえる」「文章を読み感想などを伝え合う」に課題が見られる。
- 算数 「たし算とひき算」「三角形や四角形」「長さ、かさ」「時間の単位」に課題が見られる。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

「話の内容の大体をとらえる」「文章を読み感想などを伝え合う」に課題が見られることから、文の読み取りに弱みが見られることがわかります。そのため、教科書の文を丁寧に音読したり、文章からわかることを授業の中で共有したりして、読み取る力を高めていきます。また、授業の中で教科書の本文を伝え合う活動を増やしていきます。そして、「話の内容の大体をとらえる」ためには、文章を短く区切りながら、ポイントとなる言葉に注目して文章を読んでいく必要があると考えます。国語の教材を読むときには、初めにどんなお話だったか、どんな内容が書かれていたか共有しながら読解する力をつけていきます。また、わからない言葉がある場面が多く見られるので、国語辞典を活用し、語彙を増やすよう取り組みます。

算数では、全体的な領域に課題が見られる結果となりました。これまでの学習を復習する必要があると考えます。四則演算など基本的な知識技能については、朝学習や家庭学習、算数の冒頭の時間に反復学習を進めて定着を図ります。

「長さ、かさ」「時間の単位」では、生活の中で使う学習内容がなかなか定着していないため、意識的に時計を読む活動や量感をつかめるような取り組みが必要であると考えます。

《具体的な取り組み》

- (国語)・漢字の読み書き、言葉の意味を調べる活動をして、語彙を増やす。
- ・読んだ文章から内容を説明する活動を入れる。
- (算数)・朝学習や家庭学習で、既習の計算学習をし、定着を図る。

- ・量感を視覚的、体験的につかめるような活動をし、単位の定着を図る。

4. 家庭学習にかかわって

「漢字」「計算」「音読」「自主学習」の流れが整ってきている子が多くなってきました。課題にもあるように、音読をただ読むだけになってしまっているのではないかと心配があります。話の内容を簡単に説明できるように、どの段落にはどんなことが書いてあるとつかみながら音読するなど、音読にめあてを持って取り組ませていきます。また、わからないことをそのままにしまわれないようにわからなかった問題や自信のない問題には印をつけることで、自分で調べて解決したり、答えにたどり着くまでの説明を一緒に考えたりできるように取り組んでいきます。

自主学習では、日常の中から疑問に思ったことを調べてノートにまとめたり、苦手な計算や漢字を反復練習したりする子が増えてきています。2学期からはさらに、今の自分に必要な学習は何かを考えながら取り組むことができるように指導をしていきます。

【2年生標準学力検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

国語と算数の正答率は、ともに全国平均と比べると下回る結果となりました。国語では、特に「話すこと・聞くこと」の領域が課題です。算数では、「数と計算」「図形」の領域に課題があります。

2. NRTの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

- (強み) 国語 「文や文章を正しく書く」「漢字の読み、言葉のまとまり」については全国平均を上回る結果となった。また、「文章を読み感想などを伝え合う」については、全国平均を大きく上回り、力がついている。
- 算数 「たし算やひき算」についてはおおむね力がついている。
- (弱み) 国語 「話題を決め、伝える内容を選ぶ」「相手の話に関心を持ち話し合う」「重要な語や人物の行動をとらえる」については全国平均を大きく下回り、課題となった。
- 算数 「数の構成と表し方」「ものの形、ものの位置」「時刻の読み方について全国平均を下回り、課題となった。特に「数直線上の数」や「場面からの加減法の計算」は、さらなる復習が必要である。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語では、「話すこと・聞くこと」に課題があります。授業の中で、自分の意見を発表する場面を多く取り入れ、伝えたいことを話すことに慣れる活動を行っていきたいと思います。伝えたい内容を相手にわかりやすく伝えるために、「まず」「つぎに」「さいごに」などの話す順序を表す言葉を用いたり、簡単な構成メモをもとに内容を整理したりしていきます。発表している内容をしっかり大切なことをおとさず聞き取ることをします。相手の話を聞いて、自分の思いや考えをまとめ、相手に伝えることを大切にしていきます。

今回のNRTでは、「漢字や言葉」が強みとして出てきましたが、1年生の内容項目から出題されています。そのため、2年生に進級し、漢字や言葉も増え、難しいと感じる子も多くいるように感じます。朝学習の時間や国語の時間を使って漢字や言葉の定着を図ります。

算数では、計算や図形の領域に課題が見られ、基礎基本の定着が必要です。「時刻の読み方」についても、2年生の「午前」「午後」を用いた時刻の読み方や「時間」の求め方では、学年全体として課題であることがわかってきました。このように、すべての領域で課題を克服するため算数プリントや計算ドリルを用いて多くの問題を解き、反復練習から定着を図ります。また、文章を読み取る力をつけるため、文章問題ではキーワードに着目させたり、文章をもとに絵や図に表して思考を整理したりして、課題を解決するようにていねいに指導していきます。

《具体的な取り組み》

- (国語) ・話すテーマを決めて日常的に自分の思いや考えを伝える活動を増やす。
・漢字の読み書き・文法・言葉のまとまりなど朝学や家庭学習で確実な理解の定着を図る。
- (算数) ・家庭学習や授業始めの計算プリントで反復練習を行い、計算の定着を図る。

- ・具体物を用いたり，操作活動をしたりして実感を伴った理解の定着を図る。
- ・文章問題では，問題文をしっかりと読むことやキーワードに着目し図や絵を用いて考える方法を身につける。

4. 家庭学習にかかわって

家庭学習として、「漢字」「計算」「音読」の3つを基本としています。計算ドリル以外にも算数プリントを宿題として出すこともあります。その日の授業の復習であったり，今までに習った筆算の練習問題であったりが主な内容になっています。とくに，計算力をつけるためには反復練習が必要です。ドリルやプリント以外にも計算カードで声に出して読むことやタブレット「ミライシード」で繰り返し練習するなど，確実な力つけていけるよう働きかけます。また，自ら課題を見つけて取り組む力をつけるためにも自主学習の課題も出していこうと考えています。

家庭学習振り返り週間の取り組みから，平日には家庭学習に時間をかけて取り組んでいる様子がわかってきました。一方で，休日になると生活習慣が乱れてしまったり，家庭学習をおろそかにしてしまうなどの傾向があります。また，家庭で読書の時間を設けている子が少ないという課題も見られました。学校で出た宿題だけでなく，自分の課題や興味関心のあることに自ら意欲的に取り組めるよう自主学習の仕方を指導していきます。また，読書に親しむことで感性を豊かにし，話す・書く基礎となる語彙を増やすなど，自主学習と併せて家庭学習が充実したものになるよう指導していきます。